

ここがポイント！



現金及び預金 ▶ 593億円となり前期末(平成16年3月末)から242億円取り崩しました。

たな卸資産 ▶ 1,775億円となり、為替の影響などもあり前期末比35億円増加しました。

有形固定資産 ▶ 2,226億円となり、前期末比24億円増加しました。

材料研究棟(八王子)の建設と情報機器、オプト事業の生産増強のための設備投資等を行ったことによります。

有利子負債 ▶ 2,463億円となり、これまでに引き続き削減の結果、前期末からさらに216億円減り、2,500億円をきりました。

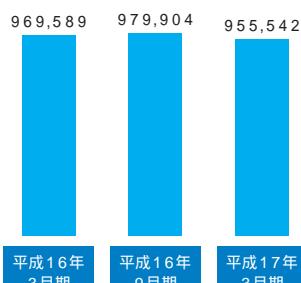
株主資本 ▶ 3,397億円となり、株主資本比率は35.6%となりました。

連結貸借対照表(要約)

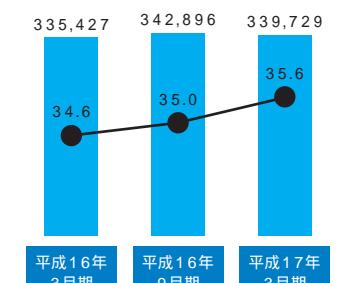
(単位:百万円、未満切捨)

	当期 平成17年3月31日	前期 平成16年3月31日
現金及び預金	59,330	83,574
受取手形及び売掛金	243,098	223,032
たな卸資産	177,505	173,949
その他の流動資産	62,794	55,213
流動資産合計	542,728	535,769
有形固定資産	222,617	220,204
無形固定資産	109,625	120,204
投資その他の資産	80,570	93,411
固定資産合計	412,813	433,820
資産合計	955,542	969,589
支払手形及び買掛金	138,074	141,783
有利子負債	246,346	267,951
その他の負債	229,671	223,184
負債合計	614,092	632,919
少数株主持分	1,720	1,242
資本合計	339,729	335,427
負債・少数株主持分及び資本合計	955,542	969,589

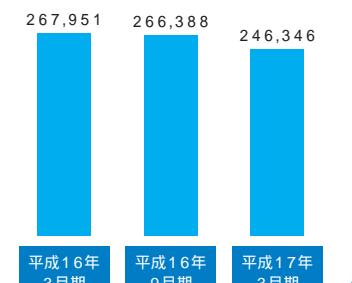
総資産(単位:百万円)



株主資本・株主資本比率(単位:百万円、%)



有利子負債(単位:百万円)



連結損益計算書

(単位:百万円、未満切捨)

ここがポイント!

	当期 平成16年4月1日～ 平成17年3月31日	前期 平成15年4月1日～ 平成16年3月31日
売 上 高	1,067,447	1,123,591
売 上 原 価	597,800	644,881
売 上 総 利 益	469,647	478,710
販売費及び一般管理費	402,069	405,496
営 業 利 益	67,577	73,213
営 業 外 収 益	8,971	12,130
営 業 外 費 用	22,931	32,805
経 常 利 益	53,617	52,538
特 別 利 益	3,177	1,740
特 別 損 失	21,364	13,737
税金等調整前当期純利益	35,430	40,540
法 人 税 等	27,352	20,954
少 数 株 主 利 益	553	241
当 期 純 利 益	7,524	19,343

実質ベース(前期のコニカとミノルタ両社間の取り引きによる膨らみ、事業統合に伴う海外子会社の決算期の調整、為替などの諸要因を除いたもの)では約173億円の減収とみています。

売上高と同様に諸要因を除いた実質ベースでは約7億円の増益とみています。

統合に伴う合理化費用40億円、フォトイメージング事業の構造改革費用49億円やカーメラ事業のれん代一括償却54億円など含め、213億円の特別損失を計上しました。

ここがポイント!

税金等調整前当期純利益354億円と減価償却費の529億円が大きく貢献したものの、売上債権の増加や仕入債務の減少など運転資本の増加231億円に加え、法人税等の支払いが314億円となり営業活動によるキャッシュ・フローは556億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、未満切捨)

	当期 平成16年4月1日～ 平成17年3月31日	前期 平成15年4月1日～ 平成16年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	55,680	86,137
投資活動によるキャッシュ・フロー	49,343	31,924
+ フリー・キャッシュ・フロー	6,336	54,213
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,614	55,317
現金及び現金同等物に係る換算差額	642	1,612
現金及び現金同等物の増減額	24,635	2,716
現金及び現金同等物の期首残高	83,704	85,236
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	416	1,035
株式交換による現金及び現金同等物の増加額		148
現金及び現金同等物の期末残高	59,485	83,704

新製品の金型投資に加え、液晶偏光板用フィルムや重合法トナーの生産能力強化を積極的に行った結果、投資活動によるキャッシュ・フローは493億円のマイナスとなりました。

社債の償還248億円を中心に有利子負債のさらなる削減を行った結果、財務活動によるキャッシュ・フローは316億円のマイナスとなりました。

単体貸借対照表（要約）

資産の部

	当期 平成17年3月31日
流動資産	157,113
現金及び預金	14,969
未収収益	1,528
短期貸付金	129,263
その他の	11,351
固定資産	246,272
有形固定資産	76,919
建物及び構築物	43,257
土地	31,381
その他の	2,281
無形固定資産	4,697
投資その他の資産	164,654
投資有価証券	22,150
子会社株式	126,087
その他の	16,415
資産の部合計	403,386

(単位:百万円、未満切捨)

負債及び資本の部

	当期 平成17年3月31日
流動負債	102,513
短期借入金等	93,963
未払金及び未払費用	8,162
その他の	387
固定負債	78,123
社債及び長期借入金	64,342
その他の	13,781
負債の部合計	180,637
資本金	37,519
資本剰余金	157,521
利益剰余金	14,301
土地再評価差額金	8,687
株式等評価差額金	5,511
自己株式	791
資本の部合計	222,749
負債及び資本の部合計	403,386

コニカミノルタホールディングス(株)の業績について

持株会社である当社は、事業活動を営む各事業会社や共同機能会社などの子会社からの配当収入、不動産賃貸収入、ブランド使用料等を主な収入としており、当期の営業収益は410億円、営業利益は141億円、経常利益は150億円となりました。しかし、子会社であるコニカミノルタフォトイメージング株式会社への投資額に関して、同社の実質価額が当社の株式取得価額と比較して著しく低下する状況となつたため、子会社株式評価損として特別損失に338億円を計上しました。この結果、単体での当期純損失は155億円、当期の未処理損失は127億円となりました。

利益処分に関する中長期的な方針

連結業績の進展状況と配当性向及び将来の事業拡大のための内部留保の充実などを総合的に勘案しながら、安定的な配当を継続することを中長期的な基本方針としています。

安定配当の観点からは、これまで継続してきました1株につき年10円を目安におき、また、成長配当の観点からは連結業績ベースで15%以上の配当性向を1つの指標に定め、グループ業績に連動したかたちで可能な限り配当の増額を目指していきます。

当期の利益処分の理由

経営基盤整備のための統合費用やフォトイメージング事業の構造改革費用が一時的にグループ収益に影響を与えており、また、事業環境は引き続き厳しいものと予想されますが、上記の方針に従って当期の配当金については前期と同じく1株につき5円としました。なお、昨年12月に中間配当金として1株につき5円をお支払いしましたので、年間としてお支払いする配当金は1株につき10円となります。

単体損益計算書（要約）

(単位:百万円、未満切捨)

	当期 平成16年4月1日～ 平成17年3月31日
営業収益	41,014
営業費用	26,852
営業利益	14,162
営業外損益	887
経常利益	15,050
特別損益	32,704
税引前当期純損失	17,654
法人税等	2,058
当期純損失	15,596
前期繰越利益	5,466
中間配当額	2,655
土地再評価差額金取崩額	10
当期未処理損失	12,774

利益処分

(単位:円)

当期未処理損失	12,774,409,673
圧縮記帳積立金取崩額	2,350,643,947
別途積立金取崩額	16,964,762,500
計	6,540,996,774
これを次のとおり処分いたします。	
株主配当金 (1株につき5円)	2,654,724,605
次期繰越利益	3,886,272,169